

が奪合ひする経済的枠楯なのであるから。彼等の間には『経済的協調』のあり得る筈もなく、曾てあつた例しも無い。斯の如くして誤れる前提からは、誤れる不自然な状態が際限無く起つて來ることが明かである。其誤れる前提とは、労働は價值を持つた競賣される商品であるといふ、舊い、型に入つた誤解である。ジュー・エー・ホブソンの所謂『経済的索引力』とは、どの經濟團體から、剩餘價值をより多く、又はより少く掴んで居るといふ丈けの意味に過ぎない。有生物たる労働者がもはや剩餘價值を作るまいと決心するや否や、其等の『索引力』は無に歸してしまふ。それは彼等の掴んで居たのは、實質的な剩餘價值では無くて、虚空であつたといふ丈けの簡單な理由で、忽ち無に歸してしまふのである。彼等は虚空を掴んで居る、そして虚空の中に彼等も消失してしまはなければならぬ。

現在の分配方法に對する吾人の批難は、事實に依て十分裏づけられては居るが、さりとて吾人は決して有效なる分配方法の極めて重要なことを認めない者では無い。生産上の發明と變化とに刺戟を與へるものが、分配階級であるといふ主張には、確かに眞理が含まれて居る。假に労働者が賃銀制度を排棄して生産の管理を司るとせよ、然らば彼等は高級の教育を受けて、益々氣むづかしくなつて行く消費者の大軍に依て提出される無数の要求に對して、如何なる態度を採るであらうか。労働者は、變化が増大せる労働力に對する刺戟であることを認めず、一定の型に固定することを望むであらうか。労働者が努力節約の發明を歓迎すべきことは疑を容れない、が彼等は多數多様の生産物に對する要求——高度の文化に浴せる社會の必然の要求——を果して飲んで迎へるであらうか。

此間に答へることは容易でない。然し吾人は第一に、現存の制度の下に於ては、賃銀労働者は、品物に多くの種類のあることや、品質の優良なことなどのお蔭を、毫も蒙つて居ないことを斷つて置かなければならない。我々の現在の美や技術の標準は、誤れる經濟組織と不自然な状態との雰圍氣の中に生長したるが故に、不自然であり、誤つて居る。將來に於ては、恐らくポンド街に表はれてゐるような趣味は喜ばれなくならう、ポンド街の如きは美を標準とせず、金目なものを並べることが主になつて居るのである。が、兎に角、今日の労働者は、ポンド街の要求するやうなものを生産して居り、労働者が今日までに爲し得たことは、將來も爲し得るに相異なる。然し左様は云ふものゝ今日美しくて上品だと思はれて居る物で、將來労働者に依て當然にも不必要と看做される物も澤山あらう。然し美しい物を作りたいと思ふ美術家生來の欲求は、自分の作品を自分の自由にし得ることの爲めに、好い刺戟を受けるに相異なる。工藝家の技倆が最もよく發達したのは、中世のギルドの下に於てであつた。故に我々は、工藝家は將來飽まで其精神を發揮して行くものと信じて好からう。さて又、工藝家と美術の愛好者とを接觸させる爲めに、一年一億磅を消費する必要があるであらうか。ギルドは、労働者が富の生産を略取する手段である、吾人は、人生を單に精神的のみならず、物質的に一層美しくするが爲めには、一般的教育の普及と發達とに望みを掛けることが出来る。

さてそこで我々は、國民生活に對する賃銀制度の意味を概括すべき場合となつた。即ち、

(一) 賃銀制度は現在の産業組織の脊髄である。